



# 広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2016. 11. 1  
第 68 号

## 今年度の聖句

「わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです」

コリントの信徒への手紙一 3章9節

## 広島女学院創立 130 周年を迎えて

同窓会会長 大矢みどり (大矢/高 23)

同窓生の皆様、日頃は同窓会活動にご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。特に、関東ブロックは中国ブロック (19,716 名) に次ぐ 2,386 名の会員を有し、活発な活動をされておられ、とても心強く思っております。

さて、広島女学院は今年、創立 130 周年を迎えました。それを記念して様々な会が開かれましたが、関東ブロックにおいても「広島女学院創立 130 周年を祝う会」が 10 月 8 日、ANA インターコンチネンタルホテルにて盛大に開催されました。

礼拝の中での湊先生のメッセージ「人生の優先順位」ではマルタとマリアのお話を通してどのように優先順位をつけるかを考えさせられ、その後の講演では女学院で教育を受けた者として、女性としてどうあるべきかを改めて考えさせられました。広島女学院の第三代院長校長日野原善輔先生のご子息 日野原重明先生 (105 歳) のユーモアにとんだ青春時代の女学院での思い出話では思わず笑いがこぼれました。星野校長先生と教え子でヴァイオリニストの田中晶子さんの演奏ではその音色の美しさに夢見心地になりました。そして主役は大勢お集まり頂いた 20 歳から 96 歳までの明るく活発で元気な往年の女学院生。

私が在籍していた頃の女学院生は、悩み多き青春時代でありながらも、明るくて活発で、大らかでお

ちやめで、とても楽しい雰囲気でした。今振り返ってみますと、自分たちの頭で考え行動し責任をもつという事を、先生方に見守られながら学んだように思います。そして毎日の礼拝、宗教週間、クリスマス礼拝等、その時々々の訓話に考えさせられたり、時に疑問を感じたりしながら、いつの間にかその教育が身体にしみ込んでいることを年齢を重ねた今、感じさせられます。

この教育を礎に世代を超えてこうして集い、相通じるものを共感し合える事が同窓会の醍醐味であり素晴らしい事であると大きな感動をもって実感致しました。そして、それこそが、広島女学院が 130 年のたゆまぬ歩みの中で培って来たものだと思います。

同窓会では、私達が受けてきた教育が次の世代にも受け継がれていくことを願って、母校を支えて行きたいと思っております。

この度は、関東ブロックの皆様のご尽力によりこのような素晴らしい会が持てました事を心より感謝申し上げます。今後とも、ご理解、ご支援の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



# 広島女学院創立 130 周年を祝う会

10月8日(土) ANA インターコンチネンタルホテル東京

同窓会関東ブロック主催の「広島女学院創立 130 周年を祝う会」を、去る 10 月 8 日 (土)、ANA インターコンチネンタルホテル東京にて開催いたしました。



約 1 年前から関東ブロックの支部長会のメンバーを中心とした運営委員会で「125 周年を祝う会」と同じ 140 名を目標として会場探しを始め、格別の配慮を頂いた赤坂の“ANA インターコンチネンタルホテル東京”に決めさせて頂きました。

その後、まずは院長・学長の湊 晶子先生にご出席とメッセージをお願いし、日野原重明先生（聖路加国際病院名誉院長）にもお伺いをたてたところ、ご出席とのお返事を頂きました。

支部ニュースの発行に合わせ、6 月初旬から参加受付を始めましたが、8 月末日の締め切りを待たずに 200 名を超えるお申し込みを頂き、テーブル数を増やして何とか対処しようとしていたところ、思いがけず、会場のスペースを広げて頂けることになりました。

プログラムなども当初の予定の倍近い数量の準備のため、総出で作業をすることとなりましたが、正に嬉しい悲鳴でした。

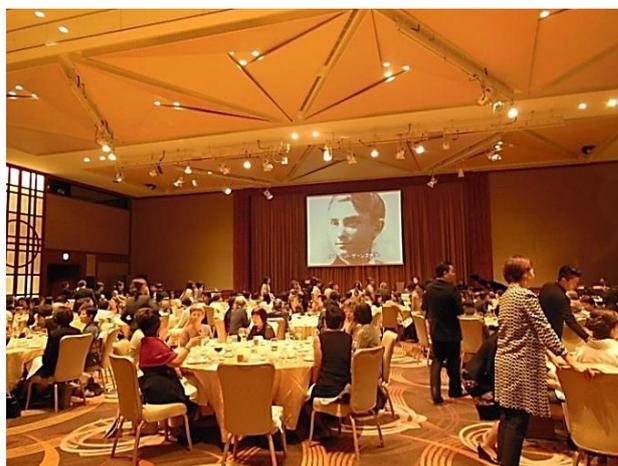
いよいよ 10 月 8 日 (土) 当日、105 歳のお誕生日を迎えられたばかりの日野原重明先生をはじめ、ご来賓、96 歳から 20 歳までの同窓生、合わせて 239 名のご出席を頂きました。

大矢みどり同窓会長のご挨拶の後、礼拝では、湊 晶子先生から、「人生の優先順位」と題したメッセージを頂き、引き続き、講演でも、「～女性のライフキャリアを生かす～ 母校の建学の精神」と題して、女性の生き方を力強く示して頂きました。



先生のお話を始めて聴かせて頂く同窓生も多く、温かいお人柄にも触れさせて頂くことができました。

その後、中学校長 星野晴夫先生による食前の祈りと乾杯で会食に入り、130 年の歴史を感じる DVD を見ながら会話を楽しみ、美味しいお食事を頂きました。



日野原重明先生からは、元院長の日野原善輔先生のこと、ご自身が病気をされた経験が医師として役に立ったというお話など伺いましたが、



広島には青春時代の甘酸っぱい思い出があり今でも広島に行くとよみがえると語って下さいました。

その後、女学院中学卒業後、桐朋学園で学ばれ、現在はNHK交響楽団第二ヴァイオリン次席奏者と



して活躍中の田中晶子さんの演奏で、バッハの「無伴奏パルティータ第三番」を聴かせて頂いた後、星野先生

のピアノ伴奏で「主よ、人の望みの喜びよ」の演奏というサプライズもありました。

岸田裕子外務大臣夫人（和田/高校 35）からもご挨拶を頂き、最後に全員で広島女学院同窓生の歌「どんなに時が流れても」と校歌を歌い、お開きといたしました。

この会に関わって下さった全ての方々に感謝いたします。そして、これを機に、同窓会活動に参加される方がさらに増えることを願っております。

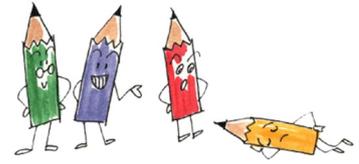
（関東ブロック長 坂下 恵）



## 創立 130 周年記念「講演とオルガンコンサート」

9月24日、(土)、広島女学院創立130周年を記念してゲーンズホールで行われた講演とコンサートは、中学高校校長 星野晴夫先生の司会で始まりました。院長・学長 湊 晶子先生のご自身で作られたPowerPointを使つての講演「女子教育が世界を変える」はテンポの良い運びで、分かりやすく、ご長女の内海恵子さんとお孫さんの彩花さんのパイプオルガン演奏は、重厚なバッハの曲から、技巧的な近代の曲まで、連弾2曲を含め、8曲も聴かせて頂きました。600名近い方々が参加されたとのこと。この記念すべき会を、湊先生、ご長女、お孫さんのご奉仕によって行って頂きましたことに、心より感謝申し上げます。（坂下）





## 恩師のひとこと

### 梶尾祐子 (深野／高校41回)

広島を離れてそろそろ30年がたとうとしておりますが、この度ご縁があり「同窓生の輪」を書かせていただくことになりました。

私は1989年に女学院高校を卒業したのち、医学部に進学しました。父が内科開業医をしていたこともあり、両親の勧めという至極単純な理由でした。隣県の川崎医大という私立医大で学んだ後、母校の皮膚科学教室に入局、その後は大学院へ進学し、臨床のかたわら研究にも従事しました。その流れでワシントン州シアトルにあるワシントン大学皮膚科で創傷治癒の研究を行う機会にも恵まれました。中学時代の英語の教科書(New Prince)の舞台がシアトルだったり、友人たちが高校の夏休みにホームステイでアメリカへ行くのを見送ったりしていましたが、何故か海外生活は自分には縁がないものと思いこんでいました。しかし結局は日本とシアトルを行ったり来たりしながら計4年の時間をシアトルで過ごし、そこで学んだことは今でも大きな財産になっています。帰国後は東京で勤務医として数年を過ごし、2014年に目黒駅そばで皮膚科・小児皮膚科・美容皮膚科のクリニックを開業しました。どういうわけか開業とほぼ同時に子宝にも恵まれ、44歳で母親になりました。気がつくやうに皮膚科医・経営者・母・妻の4足のわらじを履くことになり、毎日があっという間に過ぎていきます。

毎日忙しくしている中で、度々思い出すことがあります。それは高校1年生のときの担任であった、三浦須満子先生との会話です。高1のときに持病であった先天性心疾患の手術を受けることに



なり、一学期の期末テストが終わると同時に入院し、夏休みいっぱいを使って治療をすることになりました。手術を受けない場合の寿命は40歳と聞かされていたのですが、自覚症状もなく、生活の制限も体育を時々見学する程度だったため、さして意識もしていませんでした。手術を控えたある日、何気なく「寿命が2倍になるなんて、不思議な感覚です。ゴールがすごく先になったような。」と先生にお話したところ、「そうか、深野さんはここまで全力疾走で来たのね。」と言われ、ハッとしました。毎日なにげなく過ごしてはいたけれど、何か目的意識を持って生きてきたかというところではないなあ…と。といっても、すぐに意識改革がおこったこともなく、高校時代も比較的のんびりと過ごしたような気がします。のんびりした校風の中でも、平和を祈る週や碑めぐりのボランティアを通じて平和な社会を実現することの大切さを学び、他者のために真摯に働くという姿勢を意識するようになったのは女学院教育のおかげだと感謝しております。

大学に入るとさすがに学ばなくてはならないことの多さに追い立てられるようになりましたが、それと同時に医学の面白さに目覚めていきました。実際に現場に入ってみると、患者さんと対峙することは座学で学ぶことだけでは太刀打ちできない大きな壁があり、医師になりたてのころは、当たり前ですが、役に立たないも同然でした。当時の臨床医学はまだ経験が物を言うと言われていた風潮が残っていて、経験のない私は患者さんに納得の行く説明をするのに随分と苦勞しました。病因をより理解することで患者さんへより良い診療ができるようになるのではと考え、研究に携わったこと、そしてたくさんの患者さんを経験して学んだことで、徐々に臨床医としての視野が広がっていったと思います。

今では当初の寿命といわれた40歳をとっくに超えてしまいましたが、三浦先生がおっしゃるところの全力疾走が出来ているのではないかなと思える時もあるようになってきました。

医師の仕事は、ただ病を治すだけでなく、患者さんがより良い毎日が送れるように手助けをすることでもありと思いながら日々診療を行っています。患者さんとお話するときには、病気の説明や

薬の説明だけでなく、薬の塗り方、いつまで薬をつかったらよいか、生活上の注意点なども、例えを用いたりしつつ、簡潔かつわかりやすい説明をするように心がけています。私が三浦先生に言われたことを今でもずっと覚えているように、患者さんが後々まで「あのときに皮膚科の先生に教えてもらったことを今でも覚えている。」と思ってくくださるような診療ができるよう、これからも全力疾走で毎日を過ごしたいと思っています。お近くの方でお肌のお悩みがありましたら、お気軽にご相談ください。



めぐろ皮膚科クリニック

<http://meguro-derm.jp/>

## スーパー・グローバル・ハイスクールの最高評価！

SGH スーパーグローバルハイスクール  
中間報告で文部科学省より  
最高評価  
をいただきました

SGH(スーパーグローバルハイスクール) 初年度(2014年) 指定校56校に対する中間評価が公表されました。  
「優れた取組である」として、広島女学院は6段階のうち、最も高い評価を受けました。  
この評価を受けたのは本校を含む4校のみです。  
特に評価が高かったのは、「平和・核・途上国関係などの難しいテーマに多様なアプローチで考えさせる教育方法」  
「全教員が一丸となって邁進している点」、「生徒の成果物レベルの高さ」です。  
研究テーマと方法、生徒、教員、すべての面において「特筆すべき」と評価されました。  
130年の歴史の上に立脚している広島女学院のグローバル教育。  
詳しくはSGH関連の様々な取り組みは「SGHブログ」にてどうぞ！  
広島女学院中学高等学校

10月1日、創立記念日に、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)の中間評価が発表され、広島女学院中学高等学校は、最高評価の学校に選出されました。評価対象はSGH事業初年度(2014年度)に指定を受けた56校で、そのなかで最も高い評価を受けたのは4校です。詳しくは中高ホームページのSGHブログをご覧ください。

# 報告 2016 夏雲の集い ～原爆死没者追悼礼拝～

原爆投下から71年が経ちましたが、多くのかけがえのない命が奪われた事実を決して風化させてはならないと、毎年関東ブロック主催で追悼礼拝を行っています。29回目となる今年は神奈川支部の担当で7月8日に横浜指路教会をお借りして行いました。

礼拝では藤掛順一牧師から、オバマ大統領の広島でのメッセージを引用された「平和を実現する人」と題した力強いメッセージを頂きました。

第二部はイギリスから今回のために一時帰国して下さったシャンソン歌手の梅宮玲子さん（天野／高校24回）の歌で、ジョルジュ・ムスタキの「ヒロシマ」、クミコの「祈り」、そして「アンデスの

風」。心のこもった歌が礼拝堂に響き渡り、胸を打ちました。

第三部は茶話会で広島弁も飛び出すおしゃべり。広島から塩冶副会長もお迎えして、高女52回の大先輩から、初々しい高校59回生まで、48名の参加でした。（坂下）



## 「私の道標」

山田志穂（高59）



教育実習で出会った女学院の女の子達が今年、卒業した。「私は教師にはなりません」と伝えた時のびっくりした顔を今でも覚えている。あのとき宣言した通り、私は演劇の道へ進んだけれど、映画館ではまだ会えそうにない。

劇団民藝に入ったきっかけは、「アンネの日記」のアンネ役のオーディション。役に落ちての入団だった。入って一年の締めくくりには、代表の奈良岡朋子さんを始め劇団員だけに見せる新人発表会がある。それが偶然にもヒロシマの物語だった。こんなではやらない方が良く、あまりに失礼だ、と、役の大きさに途方に暮れた日々。けれど、これが私の「過ちは繰り返さない」という誓いの仕方ではないか。人生の最終目標だった被爆者の役は、私の出発点となった。

発表会を終えると初舞台が決まり、「冬の花—ヒロシマのころ—」（小山祐土作）。瀬戸内海の島を舞台に、原爆の後遺症に苦しむ男性とその妻を描いた物語だ。方言指導の役割もあり、責任を感じたが、なんと私だけベトナム人の役。みんな広

島弁を話すのに、広島出身の私は片言の日本語。これにはがっかりしたが、その片言に広島弁のニュアンスを入れることを演出家は助言してくれた。モデルになっているのは、ベトナム戦争で傷付き、実際に治療のため広島にやってきた少女達。島の高台から彼女は呟く。「タイヘンウツクシュウテ、ヘイワデス」と。ヒロシマの作品はその後も続き、付き人として参加したNHKのドラマ「基町アパート」では、方言指導と、一瞬だが、台詞もいただいた。

入団して5年、戦中の女学生や安保闘争の活動家等、様々な役をやった。そして劇団員になった昨年、戦争を扱った芝居をあまりに呑気にやってはいないか、ヒロシマをフィクションで描く必要があるのか、劇団や演劇の在り方に疑問を持ち、役を降りた。私は、舞台を観る時間やお金で広島を訪れてほしい。だから舞台では、ヒロシマを伝える、より一歩先の何ができないかと思う。それが何なのかは、まだ分からないままだ。それでも今の目標は、井上ひさしさんの「父と暮せば」をやること。1948年の広島で、幸せになっていいのかと苦しむ娘と、父の対話だ。

いつかヒロシマのために、と願っていた私は、ヒロシマに導かれて、迷いながら、東京で演劇をしている。（劇団民藝団員）

## ＊2016 あやめの会 報告＊ ～学士会館ランチ と 皇居東御苑散策のひととき～

6月19日(日)、時期的に雨天も覚悟していましたが比較的過ごしやすいお天気となり、高校8回から47回までの同窓生総勢38名と、フランス料理ランチ会&皇居東御苑散策の楽しいひとときを過ごしました。

厳かな雰囲気ของ学士会館で美味しいランチを堪能しながら、女学院生も参加する「日米・高校生平和会議」を9月にアメリカで開催するための支援の説明や、声楽家・チェロ奏者など同窓生の活躍のお話を伺いました。

その後皇居東御苑に移動して、佐藤美代子さん(高22・江戸東京博物館ボランティア)におよそ

20カ所の見どころで解説していただきながら1時間半ほどかけてのんびりと散策しました。3千人もの方が暮らしたという大奥跡の広さや、年代により造り方の異なる石垣の美しさに驚き、江戸時代ここに暮らした人々の生活に思いを馳せました。東京に住んでいても皇居周辺を散策する機会は少なく、まるで「世代を超えた修学旅行」のようにキャッキヤとお喋りも弾んで楽しいお散歩となりました。肝心のアヤメ(花菖蒲)も、見頃は1週間ほど遅れたようですが、たくさんの種類がきれいに咲き揃っていました。

小林悦子(土生/高46)



## 関西ブロック同窓会に参加して

5月14日(土)、大阪市北区中之島にある大阪市中心公会堂にて関西ブロック同窓会が開催され、東京支部からも役員5人が参加しました。

地下鉄を淀屋橋駅で降り、初夏の日差しを浴びながら遊歩道を歩くこと5分、公会堂は土佐堀川と堂島川に挟まれた中州にあります。赤煉瓦つくりの重厚な建物は築98年。2002年には国の重要文化財に指定されています。厳しい抽選で引き当てたという集会室は、寄木張りの床・カラフルな

ステンドグラス・刺繍が施されたタペストリーなど、芸術品そのもので、自然と厳かな雰囲気に…。小田部三恵子先生からメッセージをいただき、皆で讃美歌を歌い、130周年をお祝いしました。

後半は会場をレストラン「Sumile-Osaka」に移し、イタリア料理に舌鼓をうちました。

その後、湊晶子院長・学長よりお話を頂きましたが、「横ばかり気にする人生はつまらない、縦軸のしっかりしたぶれない人格を形成しなさい」というお言葉が特に印象に残りました。

「次は10月に東京でお会いしましょう！」と約束して散会しましたが、希望者には中の島の橋を巡る一時間のクルージングも用意してくださり、盛り沢山な内容に、とても思い出深い同窓会参加となりました。 松岡理乃(木沢/高30)



# クリスマス会

12月10日(土) 午後1時半～3時半

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会

礼拝：千代崎備道牧師(東京支部宗教委員のご主人)

奏楽(パイプオルガン)：内海彩花さん(湊先生のお孫さん)

茶話会 讃美歌を歌いましょう！

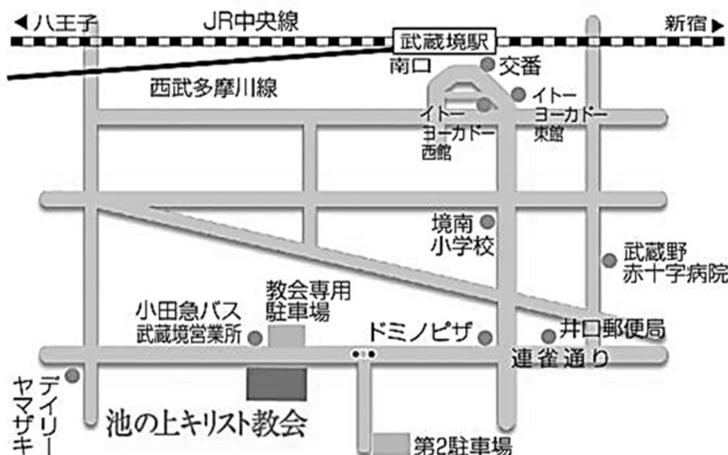
〒181-0011 東京都三鷹市井口 3-15-6 Tel:0422-33-0018

JR 中央線 武蔵境駅下車 (特快は止まりません)

武蔵境駅南口バス停3番 小田急バス 狛江駅北口行き(境 91)

12:52 発か 13:09 発で武蔵境営業所前下車 (乗車 3分)

\*駐車場も利用可



## 千葉支部クリスマス会

12月5日(月)

10時半～14時

新津田沼教会

礼拝・食事と歓談

会費：1000円(お弁当代)

申込み：090-1774-5200 村中

## 《編集後記》

- \* 創立130周年記念募金にご協力ください。10月発行の女学院報・同窓会報に趣意書が同封されます。
- \* 7月21日に逝去された元院長 片柳寛先生のお別れ会、クワイヤOG会主催で1月21日(土)の予定です。
- \* 敬老の日因んで80歳以上で2015～2016年度会費納入の方50名にお祝いのカードを送りました。
- \* クリスマス会は内海恵子さんのパイプオルガン演奏でテレビに放映された池の上キリスト教会です！
- \* 東京支部では、イベントの際のお手伝い、会計監査をして頂ける方、讃美歌や校歌のピアノ伴奏をお願いできる方を求めています。ご連絡は、電話かFAXで03-3777-4445(瀧口)まで。
- \* この夏にFacebookを立ち上げました。「広島女学院同窓会関東ブロック」で検索してください。
- \* 聖路加国際病院でのボランティア活動に参加してみませんか？詳しくはホームページをご覧ください。
- \* 日展に前悦子さん(森元/高19、文英1)、佐藤美代子さん(池田/高22、文日4)が書で入選されました。
- \* 今年度の東京支部会費未納の方に振替用紙を同封しています。ご協力をよろしくお願いたします。